

anicom Integrated Report 2026

アニコム ホールディングス 統合報告書 2026

どうぶつの未来のために

アニコム ホールディングス株式会社
www.anicom.co.jp



HD027 2026-07



アニコムの使命

飼い主のみなさまの『涙』を減らし、
笑顔を生みだす
「予防型」の
保険会社グループを目指します。

科学技術の進化は、私たちの暮らしを豊かにしてきました。
一方で、人と人とのつながりが希薄になり、
不安や孤独を感じる場面も増えている現代社会において、
どうぶつたちは無償の愛を与え、
私たちの心を支えてくれる存在です。
どのような時も変わらず寄り添い、生きる力を与えてくれる、
その存在を「心の発電所」だと考えています。
私たちは、人とどうぶつがより長く、
健やかにともに生きられる未来を創り続けます。



アニコムが目指すもの

保険と医療の共進化

医療技術の進化は、多くのどうぶつの健康や寿命の延伸に寄与してきたと考えています。一方で、高度医療の発展などにより医療費は上昇傾向にあり、ペット保険業界にも新たな構造的課題を生み出しています。私たちは、この課題を保険だけで解決しようとは考えていません。保険に加え、予防と医療をともに発展させることで、どうぶつが健康で長く暮らせる社会の実現を目指しています。

その第一歩が、病気を未然に防ぐ予防の推進です。アニコムグループは、保険を通じて蓄積される膨大な診療データや健康データを活用し、疾患の発症メカニズムの解明や予防医療の実現に取り組んでいます。病気になってから支えるだけでなく、病気の発症リスクの低減に貢献することを目指しています。保険のその先にある新たな価値の創造に挑戦してまいります。

高度医療の発展

予防だけでは防ぐことのできない病気に対しては、AIやロボティクスを活用した高度医療の発展を通じて、より質の高い医療の実現に挑戦しています。

すべての病気を防ぐことはできません。だからこそ、必要なときにより良い医療を受けられる環境を広げることも重要です。アニコムグループは、高度医療の発展を支え、より多くのどうぶつと飼い主さまへ最善の医療を届けることに挑戦してまいります。



TOP MESSAGE

人とペットがともに健やかに暮らせる社会へ 保険 2.0・保険 3.0 が拓くアニコムの未来

アニコム ホールディングス株式会社
代表取締役

い森 伸昭

ペットは、人間社会を支える存在へ

アニコムを創業した当初、ペット産業は「趣味の業界」と捉えられることが少なくありませんでした。しかしながら、昨今、その位置づけは大きく変わり、ペットは家族という存在を超え、人間社会そのものを支える存在になったと考えています。科学技術の進化によって人は自由になりました。一方で、人との繋がりが希薄になり、「孤独」を感じる人が増えています。「孤独」は、現代が生み出した「新たな公害」とも考えられます。

その「孤独」を無償の愛で癒やしてくれるのがペットです。犬は4万年、猫は9,000年もの間、人とともに歩み、進化してきました。ペットはどんな時でも変わらず寄り添い、ただそこにいてくれるだけで心を満たしてくれる「心の発電所」です。「ペットのために仕事を頑張ろう」と感じている人は少なくはありません。

だからこそ、ペットの健康を支えることは、人の幸せを支えることでもあります。私は、これからの社会において、アニコムの存在意義はさらに大きくなっていくと確信して

います。

この25年間で、ペット保険を取り巻く環境は大きく変わりました。創業当時は競合がほとんど存在しなかった市場でしたが、今では多くの企業が参入しています。その中で現在、日本の生命保険会社・損害保険会社の半数以上にアニコムの保険商品を取り扱っていただいています。これはペット保険そのものが社会に必要とされる存在になった証しであると考えています。「ペット保険を社会に根づかせること」、それが創業以来のアニコムの使命でした。その役割は、この25年間で着実に果たすことができたのではないかと思います。

ここからは、市場を広げるのみならず、市場の価値そのものを高めるフェーズです。その原動力がブランドです。私は、ブランドは価格を上回る信頼であると考えています。だからこそ、アニコムは価格ではなく、価値で選ばれる会社を目指してきました。当社の保険料は業界の中で決して安いわけではありません。それでもなお、多くのお客さまに支持され、シェアNo.1を維持し続けています。これは、





家族であるミーアキャットの「みーたん」と

ペットを大切に思うお客さまが、価格だけではなく、安心や信頼という価値を選んでくださっている結果であると感じ止めています。

私は以前から、「社会人の使命は、教科書を読むことではなく、教科書を書くことである」と言ってきました。前例のない世界に挑み、自ら道を切り拓き、その歩みがやがてスタンダードになる。その積み重ねによって、ようやくアニコムは、ペット保険業界の教科書を書ける立場に近づいてきたと感じています。そして、次の25年間は、保険だけではなく、予防、医療、健康、データ、AIをひとつに繋ぎ、ペットと人がともに健やかに暮らせる新しい社会の教科書を書いていきたいと考えています。

保険は、健康をつくる時代へ — 保険2.0から保険3.0への挑戦

保険会社は、ペットが病気やケガをした後に保険金をお支払いするだけの存在であってはならないと考えています。保険会社は、どのような病気が、なぜ起こるのかを、

多くのデータから学ぶことができる存在です。そうであるならば、その知見を「治療」のみならず、「予防」にも活かすことができるはずです。一見すると逆説的ですが、アニコムが目指してきた保険2.0は、「アニコムの保険に加入すると、保険金を受け取る機会が減り、健康になる」という世界です。保険会社が保険金をお支払いする必要性がなくなることこそが、お客様にとって最も幸せな状態である。これまで十分に実現できなかった価値を形にしたい。その思いで、アニコムは四半世紀にわたり挑戦を続けてきました。25年間蓄積してきた保険データを解析し、多くの病気の発症メカニズムを解き明かしてきました。予防が進めば、ペットは健康で飼い主さまと一緒に長く暮らすことができます。そして、保険金の支払いは減少し、飼い主さまの安心にもつながります。だからこそ、保険の未来は、「病気になった後を支える」ではなく、「病気にならない社会をつくること」にあるのです。

予防を社会に根づかせるためには、保険会社だけでは限界があります。日々、ペットと向き合う獣医師の先生方と志を共有し、ともに進化させていくことが不可欠です。その想いから、アニコムは2025年10月、東京都港区（品川エリア）に「JARVISどうぶつ医療センターTokyo」（以下、「JARVIS Tokyo」）を開院しました。「JARVIS Tokyo」が目指すのは、単に一つの動物病院を開院することではありません。日本のペット医療を次のステージへと引き上げる拠点となることです。そのためには、日本で最も優秀な獣医師が集まり、日本で最も高度な医療に挑戦できる環境が必要であると考えました。全国からアクセスしやすい品川エリアという立地に加え、国立大学発ベンチャーが開発した手術支援ロボットに関する独占契約を実現し、開院からわずか半年で25名もの優秀な獣医師が集まりました。優れた獣医師が集まれば、多くの症例が集まり、医療技術はさらに磨かれます。その成果が地域の動物病院からの信頼に繋がり、新たな連携を生み出していく。こうした好循環は、すでに「JARVIS Tokyo」で動き始めています。

そして、アニコムが目指しているのは、「JARVIS Tokyo」だけが発展することではありません。全国の動物病院とともに、日本全体の獣医療を進化させることです。地域には、飼い主さまに寄り添いながら日々診療を続けていらっしゃる素晴らしい動物病院が数多くあります。そうした動物病院の先生方との信頼関係を築き、「JARVIS Tokyo」が二次診療機能を果たすことで、紹介のネットワークは自然に広がっていくと考えています。そして、高度治療を受けたペットが飼い主さまのもとでの生活に戻り、地域の動物病院での診療へとつながっていく際には、治療内容に加え、その過程で得られた知見も共有したいと考えています。例えば、免疫機能維持のための口腔ケアおよび腸内ケアの重要性

や、病気の予防につながる新たな知見を一次診療の現場へ還元することで、より多くのペットの健康に役立てていただけていると考えています。高度医療の知見を地域へ還元し、地域で培われた経験がさらに高度医療へと活かされる。その循環が生まれて初めて、日本の獣医療は次のステージに進むことができると考えています。

「JARVIS Tokyo」は開院以来、想像を上回るスピードで成長しています。地域の動物病院との信頼関係も着実に広がり、他院からのご紹介による受診も増加しています。こうした状況を通じて、「JARVIS Tokyo」が地域の動物病院に必要とされる存在になり始めていることを実感しています。

アニコムが目指す保険3.0とは、高度医療を一部の人のためのものにせず、誰もが受けられる社会をつくることです。ペットの寿命が延びるにつれ、高度医療のニーズは今後さらに高まっていきます。しかしながら、高度医療は獣医師の技術や経験に大きく依存するため、受けられる場所や機会には限りがあります。だからこそ、アニコムはフィジカルAIやロボティクスを活用し、高度医療をより多くのペットへ届けられる仕組みをつくりたいと考えています。

飛行機が自動操縦技術によって安全性を高め、世界中で広く利用されるようになったように、自動化やAIの力によって、より安全で質の高い医療を、より多くのペットへ届けられる時代が必ず来ると信じています。「JARVIS Tokyo」に導入した手術支援ロボットは、その未来への第一歩です。

保険2.0が、病気を予防する社会をつくる挑戦であるとすれば、保険3.0は、たとえ病気になったとしても最先端の医療を誰もが受けられる社会を実現する挑戦です。

未来をつくるのは、人と組織の力

企業が持続的に成長するためには、優れた戦略だけでは十分ではありません。その戦略を支える組織と健全なガバナンスが不可欠です。このたび、株主総会でのご承認を前提として、新たに3名の社外取締役をお迎えする予定です（2026年5月時点）。多様な見識を経営に取り入れ、より建設的な議論を重ねることで、中長期的な企業価値の向上につなげていきたいと考えています。私は、組織はオープンであるほど強くなると信じています。もともと私は、「隠し事はせず、どんどん外に出す」という考え方です。良い情報だけではなく、難しい課題や悩みも共有し、多くの知見を集めたほうが、より良い答えにたどり着けると信じています。だからこそ、困難な局面でこそ議論を重ねます。安易に結論を急ぐのではなく、とことん考え抜く。その文化は、創業以来のアニコムグループの強みの一つです。新たな

な社外取締役の皆さまにも、これまでにない視点から率直な意見をいただくことを期待しています。異なる価値観がぶつかり合い、十分に議論を尽くした先にこそ、本当に強い経営判断が生まれると考えています。

「JARVIS Tokyo」を立ち上げて、改めて実感したことがあります。それは、どれほど優れた戦略や設備があっても、最後に価値を生み出すのは「人」であるということです。一人ひとりの従業員が自ら考え、挑戦し、成長してこそ、会社は前へ進むことができます。だから私は、会社の成長以上に、人の成長を大切にしたいと考えています。その象徴が、アニコムグループが推進する「従業員一人一特許戦略」です。特許を増やすこと自体が目的ではありません。一人ひとりが日々の仕事の中で課題を見つけ、自ら考え、新しい価値を生み出す。その積み重ねが、アニコムの競争力につながります。2026年3月末時点で、発明者数は153名、特許件数26件となりました。私は、従業員一人ひとりをヒーローにしたいと考えています。すべての従業員が自分の仕事に誇りを持ち、「この会社で働いている」と家族や友人に胸を張って語れる会社をつくらせていきたいと思っています。

25年前、私たちは「ペット保険」という一つの事業から歩みを始めました。そして今、保険、予防、フード、高度医療、データ、AIという一つひとつの挑戦が、「わが子に元気でいてほしい」というたった一つの願いへとつながっています。その思いがお客様からの信頼となり、ブランドを育み、新たな価値を生み出す。そして、その価値が企業の持続的な成長と株主の皆さまへの還元につながっていく。この好循環をさらに大きく育てながら、私たちはこれからも挑戦を続けます。人とペットが、ともに健やかに、幸せに暮らせる社会をつくること。それが、これからも変わることをないアニコムグループの使命です。



インタビューの様子（2026年5月）